

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市鹿野児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》17,045人（前年度比 75.6%） 令和元年度 22,537人      平成30年度 23,595人      平成29年度 20,215人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 38,539千円（31,018千円） ・ その他市が負担した費用 0千円（0千円）
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 0千円（0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館地域運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策に迫られた1年だったが、いろいろと活動が制限される中で利用者に安心して楽しんでもらえる行事・活動を行ってきた。また、「笑顔あふれる児童館」をスローガンに掲げ、職員は明るく優しい笑顔で利用者に対応してきた。コロナ対策として、手洗い・手指消毒、マスク着用、室内換気、館内消毒及び遊具消毒等に毎日努めてきた。乳幼児親子対象事業は、7月より徐々に再開し、参加人数を制限して実施した。参加申込が殺到し、どの事業においても定員をオーバーし、キャンセル待ちが出るほど人気があった。小学生対象事業においては、ほとんどの事業が児童クラブの子どものみの参加となったが、ミニ縁日ごっこ、おばけやしき、ハロウィンパーティー、将棋大会等の活動を行うことができた。地域交流のできる夏まつり、児童館まつり、青空児童館、かくし芸大会は中止を余儀なくされたが、その代わりに児童クラブの子ども主体で、ミニ縁日ごっこ、おばけやしきが実施できたことは、コロナ禍の中で大きな成果であった。また、鹿野児童館の特色である「かめのこ工房」では、身近にあるものでの創作活動等を行い、子どもたちの笑顔を見ることができた。今年度は中高生の利用はほとんどなかったが、中学生が来館した土曜日は、一緒に遊んでもらった小学生が大喜びだった。子育て支援クラブ「バンビ」の活動においては、飲食関係の提供は中止されたが、クリスマス会、ひな祭り、防災教室等の行事を主催あるいは共催していただいた。例年と変わらぬ「バンビ」の活発な行動力が発揮された。地域運営懇談会は少人数、短時間で開催したが、出席者からは貴重なご意見をいただき、有意義な話し合いをもつことができた。コロナ予防対策がいつまで続くか分からない現況であるが、今後もコロナに負けることなく、みんなが笑顔で過ごせる児童館になるよう職員一丸となって努力していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の幼児クラブをはじめ、申込制でリトミックを楽しむ「ワイワイタイム」や、お話をそれぞれ月1回開催してきている。子育て支援クラブとは、七夕飾りやハロウィンプレゼントなど季節の行事や防災教室など共催し、例年と変わらない児童館の応援団として大きな力を発揮し地域の方との交流を深める機会となっていた。さらに民生委員主任児童委員との共催では、クリスマス工作や生け花講習会など母親がリフレッシュできる「お茶べりサロン」を開催し、「ホットサロン」では、専門の子育て相談員と育児相談ができるなど多彩なプログラムを提供している。コロナ禍の中、孤独になりがちな乳幼児親子を支援するための環境作りに努めており、地域の子育て家庭支援の場としての役割を十分果たしている。</p> <p>健全育成事業及び放課後児童健全育成事業においては、高学年児童の登録制の「たのしクラブ」を10月より月1回開始し、外での活動が制限される中、子ども達が年間計画を考え「映画鑑賞会」や「クリスマス会」など月1回開催している。小学生対象の「かめのこ工房」では、工作や遊びなど子どもが楽しめる活動を提供し、子ども達の好奇心や遊びへの意欲を引き出し、地域の子どもたちの育ちを支援している。児童クラブでも季節の工作を楽しむ「ぶちかめのこ工房」や野菜を育てる「かのっこ畑」を定期的に取り組み、子どもが自らやってみたいことを提案し実現できる機会を作り、生活や遊びの場で友達と関わりを広げ子どもの豊かな感性を育てている。さらに児童クラブが企画行事として取り組んだ「おばけやしき」や「ミニ縁日」など高学年児童がリーダーシップを発揮できるように企画運営を支援するなど、子ども達の自主性や社会性を育てている。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課